

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2022年度 第4回 国際交流委員会
議事録

日 時：2023年2月17日（金）15：00～17：00

開催場所：兵庫国際交流会館 1階 ナダコムステーション

委員校：兵庫県立大学（末弘、別所）、神戸市外国語大学（金子、辻井、壽谷）、明石工業高等専門学校（久保田）、大手前大学（奥田）、大手前短期大学（奥田）、関西国際大学（久保田）、関西福祉大学（高橋）、芸術文化観光専門職大学（山中）、甲南大学（小幡）、甲南女子大学（松井、沢辺）、神戸海星女子学院大学（内山）、神戸学院大学（高山）、神戸国際大学（北）、神戸市看護大学（神原）、神戸松蔭女子学院大学（板井）、神戸常盤大学（鈴木）、神戸常盤大学短期大学部（鈴木）、園田学園女子大学（井上）、園田学園女子大学短期大学部（井上）、兵庫大学（栗、堀田）、兵庫大学短期大学部（栗、堀田）

欠席校：芦屋大学、関西学院大学、聖和短期大学、神戸大学、神戸女学院大学、神戸親和女子大学、姫路獨協大学

I. 報告事項

1. 中長期計画期 事業推進体制について

（資料1）

当コンソは2006年発足し、2012年の法人化の時から始まった5か年毎の中長期計画の今年度は第Ⅱ期の初年度となる。Ⅱ期の計画下ではコンソの事業体制について「加盟校が積極的に参画でき、活性化する事業、運営体制」をコンソ理事校で構成している企画運営委員会にて検討を進めてきた。また、ビジョンに関して「大学間連携、産官学連携で人が繋がり、多様な学びを共創するひょうご神戸」とし、3つの戦略4つの柱を基に事業を運営している。コンソの目指す姿として、規模感、特性などが異なる大学39校が集まるため「多様なメンバーが学校を超えてフラットに学び合い繋がる、ダイバーシティ、イクイティアンドインクルージョン」としたと説明があった。

各事業委員会の正副委員長の決定方法について、従来の選択性から事業の質や固定化、負担論への対応、各大学ご担当者のコミットメントの向上という3つの観点から、委員長校、事業委員会の特性に合わせ、選択制もしくは、理事校内で輪番制を組み合わせることで参画しやすい仕組みとした。なお、国際交流委員会は選択制をとることとする。理由としては、自学の国際交流事業をより積極的にコンソ加盟校へ広報できる、コンソ事務局との連携によりタイムリーに他大学の国際交流の動きがわかるというメリットを活用し、自学の国際交流の強みを活かしてより効果的に推進することを希望する大学を委員長校になる手段とするためである。

申し合わせの追加事項として、3条2項の委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法の説明の後は、今年度に引き続き、来年度から3年間2025年度まで委員長校を兵庫県立大学、副委員長校を神戸市外国語大学にご担当いただくことを伝えた。

II. 協議事項

1. 2023年度国際交流委員会 事業計画・予算（案）について（資料2）

中長期計画に基づく取り組み2点について説明があった。

- ① 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（取組1）

JASSO（日本学生支援機構）の受託事業で、主に当コンソが企画、計画し、加盟校と連携して実施。

② 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進（取組2）

下記2件のプログラムがあり、2023年度も連携予定である。

・学生海外派遣プログラム 神戸常盤大学

・模擬国連演習（JUEMUN）（3月末の単位互換事業募集開始・履修登録必要）神戸市外国語大学
各プログラムについて実施大学からプログラム内容詳細の説明があった。

加えて、2023年度からは、事業年度内加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラムも加盟校の国際交流プログラムとの連携促進の取り組みとして取り扱うと説明があった。

取り扱う判断基準を以下2点のいずれかに設定する。

- 1) 各加盟校の強み・特徴を活かした国際交流プログラムを加盟校に開放することで、自学で得ることができない学びの経験とネットワークの構築の機会を学生に提供でき、加盟校の学生の学びが深まり、幅が広がることが期待される。
- 2) 加盟校が抱える国際交流の課題を加盟校間で共有し、解決に向けたプログラムとすることで、加盟校全体の国際交流の課題解消、多文化共生社会で活躍する学生の育成に繋がる効果が期待されること。

連携促進全体の予算としては、5万円を計上していると説明があった。

2. 留学生誘致について

今年度の兵庫県下学長懇での提言に従い、コンソとしてできることについて案が共有された。

① 動画制作：各大学の留学生が「自大学の良さと兵庫県の良さの2点をPRする」動画に出演

② 拡散：作成した動画を自国の留学生に拡散

（日本留学のプロモーターを担っている学生はそのツールとして利用）

③ 先輩と後輩をつなぐ：web上でオンライン先輩訪問できる仕組みを作る

（コンソ側でフォームを作り、申し込みがあった場合に各大学に繋ぐ）

留学生の推進委員として活動して対応してもらい、謝金としてはQUOカード等を検討。動画製作に関しては、JASSO受託の学生スタッフチーム（多国籍の学生が、多文化共生という観点でやってみたいことを実施するチーム）活動の一環として実施を検討している。予算は委員会予算の10万の範囲内で実施する予定であると説明があった。また、動画閲覧対象は、日本に留学したい学生の入口部分であり、大学のニーズによって自由にポイントを変えて呼びかけて頂ければと伝えられた。

3. 加盟校の留学生数の調査について

兵庫地域留学生推進交流会議廃止に伴い、留学生数や国籍等に関する調査を検討している。理由としては、以下3点が挙げられる。

- ① これまで、継続してきた調査が一旦途切れることで、統計情報としての利用価値がなくなるので何かしら続けた方がいいということ。
- ② 有事に県内の大学にどの国の学生がどれほどいるかを把握しておくのはリスクマネジメントとなる。
- ③ コンソでの取り組み設計の際にも必要。（留学生の就職支援やインターンシップ等の企画の際。

例えば、兵庫県内での留学生の就職状況に関しても、国籍や割合等細分化して考えることができる）

提出方法としては、これまでJASSOに提出している留学生数の統括表をコンソの方にも共有いただくことを検討している。いつまでに、どの情報をとというのは今後委員長とも相談して後日ご連絡すると説明

があった。

以上、3点の協議事項について委員会での話し合いの結果、全て承認された。

Ⅲ. 懇談事項

1. ポストコロナの留学生交流の情報共有

各大学の状況（受け入れ、送り出し）、オンラインについて

甲南大学小幡課長からは、留学生交流は元に戻っている。欧米出身の学生を中心に現在年間40名受け入れていると共有があった。課題としては、コロナが要因となって精神面で問題を抱えている学生が増えている。カウンセリングセンターで、英語の対応が可能な教員が対応しているが、留学生の人数増加に伴って対応が困難になってきている。そこで、英語で対応可能な外部のカウンセリング機関及び心療内科について情報共有願いたいと呼び掛けがあった。医療機関については、松蔭女子学院大学板井課長から、大学周辺にある医療機関が紹介された。神戸市外国語大学辻井係長からは、契約で月に2回英語対応可能なカウンセラーに来てもらっていること、インクルーシブ教育が謳われている中で、心因性の病を理由に受け入れ拒否は難しい現状が伝えられた。また、兵庫県立大学別所課長からは、トランスジェンダーであることをカミングアウトした留学生に対する配慮として、寮を決める際の問題やフォームの性別記入欄についての課題が投げかけられた。甲南大学小幡課長からは、寮ではなくホストファミリーでの受入であるが、日常的にトイレやシャワー等の課題があると共有された。

また、神戸市看護大学神原教授からは、Zoomを使用した留学生による母国語でのカウンセリングや薬の使用方法をSNSで発信している等積極的な取り組みが紹介された。出発前の学生に生活に関する情報を流したりサポートできる学生がいることを伝えたりする等、留学生が安心できるための取組が伝えられた。各大学の留学生受入に関して抱える課題と対応策を共有できる時間となった。

2. トルコ・シリア地震への募金について

理事長提案、理事会承認予定であり、募金活動は確定していると報告があった。また、国際交流委員会として学生の学びや防災意識向上について意見交換をした。兵庫県立大学別所課長からは、トルコには協定大学があり、教員や学生同士で防災をテーマに共同研究を行っている。災害が起きた際には、学生の学びの機会だけでなく、安全性の確保も不可欠であるため、安心基準について今後検討したいと共有された。神戸市外国語大学金子センター長からは、世界で起きている国際問題について、事が起きてから動くのではなく、シリーズ的なレクチャーとして継続して学んでいくことの重要性が伝えられた。また、学校によって防災に関する情報や対応に差が出ることを防ぐため、震災が起きた時の対応を多言語で情報配信すること、現地の情報を伝えるための手段を検討していくことの必要性が伝えられた。

3. その他

神戸市外国語大学金子センター長から、長期休暇中の海外渡航届の提出状況について質問があった。兵庫県立大学別所課長からは、長期休暇の場合は、学生の自己責任のもと提出を促していると共有された。松蔭女子学院大学板井課長からは、学生の安全面を考慮すると重要性は否めないものの、提出に伴い長期休暇中の海外渡航学生全員に対して行動を迫らなければならないという教職員側の責任も発生することに対する課題についても伝えられた。神戸市看護大学神原教授からは、学生を海外に送り出す前に海外旅行保険や誓約書等についてオリエンテーションでしっかりと説明する場を設けていること、

「危機管理マニュアル」を作成し、危険性についても事前にしっかりと伝えていると共有がされた。

最後に、兵庫県立大学末弘教授から、各大学が抱える課題について今後も国際交流委員会で相談しながら、一歩進んだ形での学生支援を進めていくため引き続き協力を願いたいと伝えられ、委員会を終了した。

IV. 連絡・調整事項

1. 2022年度の国際交流委員会開催予定と主な議題について

第5回委員会 3月下旬：2022年度事業報告・決算（案）について、メール審議を行う。

2. 2月22日(水) 15時～ 情報交換会 「留学生と日本人学生の交流を考える (資料3) ～持続可能な留学生と交流を目指して～」 について告知があった。

以上